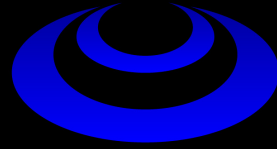


# 取り扱い説明書

user manual



PURE SPEED

SAYA Inc.



SC1000

マルチチャンネルコントロールアンプ

Multi channel control amplifier

この度は、PureSpeed SC1000 を、お買い上げいただきまして、ありがとうございました。ご使用前に、製品を安全に正しくお使いいただくため、『安全上のご注意』の本文をよくお読みの上、説明の通りお使いください。取り扱い説明書は大切に保存して、必要になったとき、繰り返してお読みください。

## 目次

1.安全上のご注意	2
2.設置	6
3.付属品	6
4.各部の名前とはたらき	7
5.接続	10
6.操作の流れ	15
7.性能	16

# 1.安全上のご注意

お使いになる人ならびに他人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただく事を、次のように説明しています。記載している、表示、図記号についての内容をよく理解してから本文をお読みになり、必ずお守りください。

■この取扱説明書では、表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や、損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



## 警告

この表示を見逃して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



## 注意

この表示を見逃して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的傷害のみの発生が想定される内容を示しています。

■この取扱説明書では、お守りいただく内容の種類を以下の絵表示で区分し、説明しています。



記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。



記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。



## ■安全上の注意・必ずお守りください

### 異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く



内部に異物や水が入った、煙が出ている、変な匂いや音がした場合、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

### 内部に異物を入れない



通風孔などから内部に、異物、金属類、燃えやすいもの、水気のあるものをなどを差し込んだり、落としたりしないでください。火災・感電の原因となります。万一内部に異物が入った場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

# 警告

## 水気を避けてください



- 水などの液体を内部に入れないでください。
  - 濡らさないでください。
  - 雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は避けてください。
  - バスルーム・シャワールーム・台所など、水気の多い場所での使用を避けてください。
  - 水槽・花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・水・スープ・ジュースなど、水気のある物や容器を近くや、本体の上に置かないでください。
- 上記のいずれの行為も火災・感電の原因となります。

## 火気を避けてください



機器の上に、ろうそく、ランプ、ガスコンロ、灰皿、タバコなどを置かないでください。火災・故障の原因となります。

## この機器の上に物を置かない



この機器の上に物を置かないでください。放熱の妨げになったり、異物が中に入る恐れがあります。火災・感電の原因となります。

## 電源コードについての取り扱い注意



電源コードへの以下の行為を禁止します。いずれも火災・感電の原因となります。

- 破損させる。(傷を付ける、切断するなど)
- 加工・改良。
- 重量物を載せる。
- 加熱。(熱器具に近付ける)
- 引っ張る。
- 腐食性のガスや液体をかける。

電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

## 電源プラグについて



- プラグは完全に差し込んでください。不完全な差込は火災・感電の原因となります。
- プラグは定期的に乾いた布で洗浄し、ほこりをためないようにしてください。プラグに付着した埃は火災・感電の原因となります。
- プラグを抜く場合、電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

## 正しい電源電圧で使用してください



表示された電源電圧、電源周波数以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

## 分解・改造の禁止



この機器を改造、分解、加工しないでください。火災・感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

# 警告

## 雷が鳴り出したら



電源プラグや、接続しているケーブル、本体に触れないでください。感電の原因となります。

## 電池の取り扱いに注意



- 乾電池は充電しないでください。
- 指定の電池を使用し、極性表示通りに正しく入れてください。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 電池を加熱、分解をしないでください。



いずれの行為も電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。また電池は乳幼児の届かない所に保管してください。

## 落下、キャビネットを破損した場合



機器を落とした場合、大きな衝撃を加えた場合、破損した場合、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

## 機器の接続は取扱説明書に従う



テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの関連機器を接続する場合、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを加工・延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

## 安全な場所に設置してください



次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に設置しない。落下、転倒等によりケガをする恐れがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ。火災・感電の原因となります。
- 湿気やほこりの多いところ。火災・感電の原因となります。
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ。

## 通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔が開けてあります。また本製品は、アルミ筐体そのものも放熱器の役割を兼ねています。従って、次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



- あお向けや横倒し、逆さまにする。
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む。
- テーブルクロスやタオルなどの布を掛けたり、布団の上に置いて使用する。

## 壁や他の機器から少し離して設置する



壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

## 機器に乗らない、ぶら下がらない、寄りかからない



倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。特にペット、お子様のいる環境ではご注意ください。

# 警告

## 重いものをのせない



機器の上に重いものや筐体からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

## 移動させる場合



- 衝撃を与えないでください。本機はディスプレイに蛍光表示管を使用しています。蛍光表示管は真空管同様に、電極構造をガラスで真空パックしたものであるため振動に弱いのでご注意ください。
- 電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードを外してから行ってください。
- 機器の上に他の物を載せて移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。



## お手入れについて



- お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。
- 4年に一度を目安に、内部の掃除をサポートセンターか販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと、ほこりが湿気を吸い込み、火災や故障の原因となることがあります。内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。
- 接点復活材は故障の原因になりますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活材はプラスチックを变形させる恐れがあります。
- 汚れを拭き取る時は柔らかい布を使用して軽く拭き取ってください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。
- ベンジン・シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると変質したり変色することがありますので使用しないでください。

## 使わないときは



長時間の外出・旅行の場合は安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

## 電源の繰り返し投入の禁止



短時間に繰り返し電源をオン、オフさせないでください。本製品は強力な電源回路を持っており、起動時に大電流が流れます。電源をオン、オフを短時間に繰り返すことで、大電流が流れる時間が多くなり、火災や故障の原因になることがあります。

## 音量についてのご注意



はじめから音量を上げすぎないでください。突然大音量が出て聴力障害になる恐れがあります。最初は音量を抑えてから再生を行ってください。長時間大音量で聞かないでください。聴力障害になる恐れがあります。また歪むほどの(割れた音)大音量で使わないでください。スピーカーが発熱し火災になる恐れがあります。

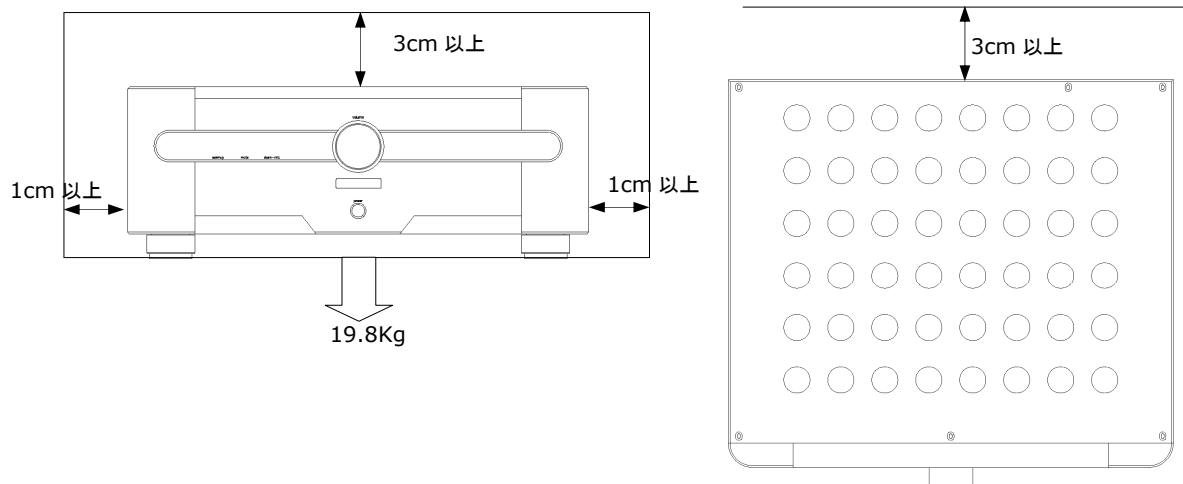
## 2.設置

### ■設置の際のご注意

第一章の、安全上のご注意に従ってください。

### ■設置環境について

放熱のため、周囲に空間が必要です。下図の通り、本機の天面、後面を3cm以上、両側面を1cm以上空けてください。また本機の重量19.8Kgを支えるに十分余裕のある安定した場所に設置してください。



## 3.付属品

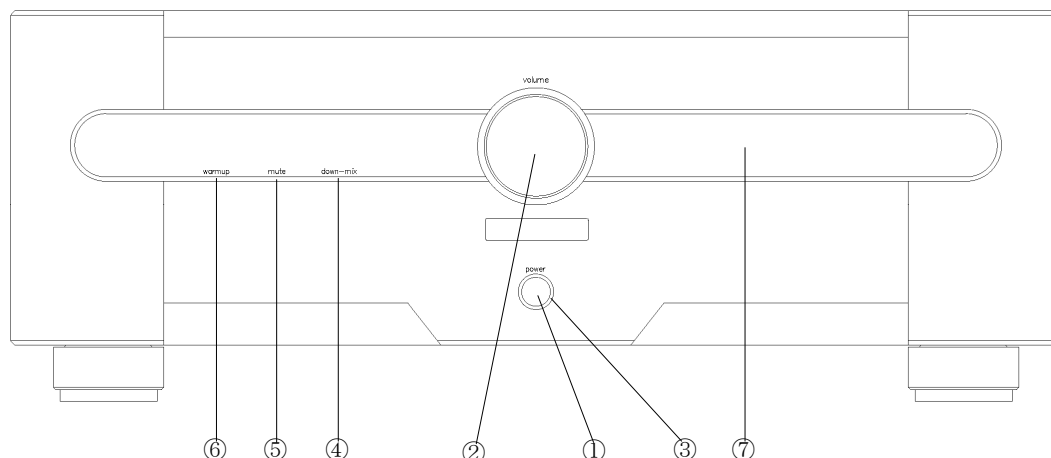
本体とは別に、以下の付属品があります。ご使用前にご確認ください。

- 電源コード 1 本
- 取扱説明書(本書) 1 冊
- リモコン
- リモコン用単3乾電池 2 本(リモコンに収納)
- 保証書

## 4.各部の名前とはたらき

### ■フロントパネル

本機は、外観上のコンセプトから、フロントパネルにスイッチやつまみをあまり並べないことにしています。そのためフロントパネルには電源スイッチと、音量調節つまみしかありません。このため様々な機能はリモコン操作を前提にしています。



#### ①電源スイッチ(power)

- 電源オフ状態で、押すと電源が入ります。電源投入後数秒間は、ミュート状態になります。
- 電源オン状態で、押すと電源が切れます。
- リモコン操作、もしくは本体の音量調節つまみを操作をした場合、状態(設定)を保存している期間が数秒あり、この間は電源スイッチが無効になります。この場合、数秒お待ちいただき、再度電源スイッチを押すことで電源をオフできます。
- 短時間に繰り返して電源をオン、オフさせないでください。

#### ②音量調節つまみ(volume)

- 音量を調節します。
- つまみを右に回すと音が大きくなり、左に回すと小さくなります。
- ゆっくり回すと微調整になり、早く回すほど粗調整になります。
- 何回転でも回ります。

#### ③電源表示 LED

動作状態で点灯し、電源を切ると消灯します。

#### ④ダウンミックス LED(downMix)

アナログダウンミックスをオンにしている状態で点灯し、オフにすると消灯します。

#### ⑤ミュート LED(mute)

ミュートをオンにしている状態で点灯し、オフにすると消灯します。

#### ⑥ウォームアップ LED(warmup)

電源をオンにしても、システムの起動中は消灯しており、起動後は点灯します。消灯中はミュート状態になります。

#### ⑦ディスプレイ

蛍光表示管による各種情報表示パネルです。音量、トーンコントロール、入力、ラウドネス、バランス、ダウンミックスなどの状態を表示します。ラウドネス、バランス、ダウンミックスは、リモコンで、これらの機能を操作する場合に表示されます。操作後、一定時間を経過すると暗くなるオートディマー機能を搭載しています。

## ■リモコン

### ①入力切り替えスイッチ(Input Select)

- 再生するプログラムソースを選択するときに使用します。
- 入力 1～入力 5 へと順次切り替わり、入力 5 でボタンを押すと入力 1 に戻り巡回します。
- 本体ディスプレイの Input[x]の[x]の項が[1]～[5]まで変化します。[x]は入力番号を表します。

### ②録音出力切り替えスイッチ(Recout Select)

- 録音出力のプログラムソースを選択するときに使用します。
- 入力 1～入力 5 へと順次切り替わり、入力 5 でボタンを押すと入力 1 に戻り巡回します。
- 本体ディスプレイの Recout[x]の[x]の項が[1]～[5]まで変化します。[x]は入力番号を表します。
- 録音機器を繋いでおり、その録音機器の電源がオフの場合、入力切り替えスイッチと異なるチャンネルを選択してください。(再生機器の負荷が重くなり歪や S/N が悪化する場合があります)

### ③音量調節ボタン(Volume+ , Volume-)

- 音量を調節します。
- +で音量を増大、-で音量を抑えます。
- 押してすぐに離すと微調整になります。
- 押し続けると粗調整になります。
- 本体ディスプレイの Volume[x]の[x]の項が[575]～[0]まで変化します。
- [575]の時が最大で、[0]の時が最小の音量になります。
- ディスプレイは dB 表示、バーグラフ表示もされます。

### ④高音調節ボタン(Treble+ , Treble-)

- 高音域のレベル調節に使用します。+でレベルを増大、-でレベルを抑えます。
- 本体ディスプレイの Treble[x]の[x]の項が[5]～[-5]まで変化します。
- [5]の時が最大で、[-5]の時が最小、[0]でフラットになります。

### ⑤低音調節ボタン(Bass+ , Bass-)

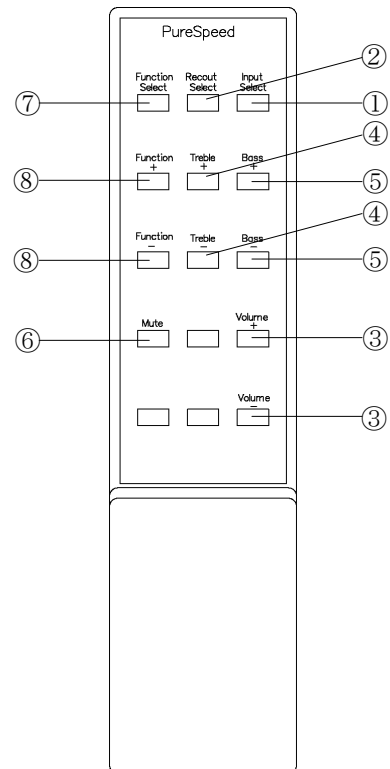
- 低音域のレベル調節に使用します。+でレベルを増大、-でレベルを抑えます。
- 本体ディスプレイの Bass[x]の[x]の項が[5]～[-5]まで変化します。
- [5]の時が最大で、[-5]の時が最小、[0]でフラットになります。

### ⑥ミュートボタン(Mute)

- 出力を開放して、無音状態にします。
- ボタンと押す都度、オンとオフを繰り返します。
- 状態は本体のミュート LED(mute)に反映されます。ミュートをオンにしている状態で点灯し、オフにすると消灯します。

### ⑦複合機能ボタン(FunctionSelect)

- このボタンを押すと、本体ディスプレイの一番下の行が Down mix ⇒ Balance1 ⇒ Balance2 ⇒ Balance3 ⇒ Balance4 ⇒ Balance5 ⇒ Balance6 ⇒ Balance7 ⇒ Balance8 ⇒ Loudness と切り替わります。Loudness の次は Down mix に戻り巡回します。
- このボタンで⑧の(Function+ , Function-) ボタンの操作目的を切り替えます。





## ⑧ 複合機能ボタン (Function+, Function-)

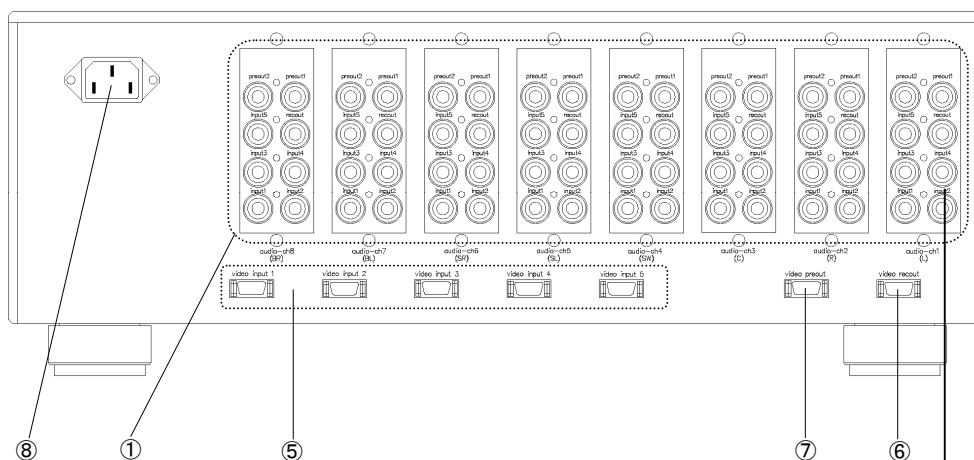
- FunctionSelect (⑦のボタン) で Down mix を選択している場合、このボタンを押すと、アナログダウンミックスをオン、オフを切り替えられます。オンの場合には本体ディスプレイに Down mix enable、オフの場合にはディスプレイに Down mix disable と表示されます。

(※ダウンミックス=5.1ch再生でセンタチャンネルとサブウーハーをフロントに分配する機能。ピュアオーディオをマルチチャンネルに発展させる場合、大型のスピーカーを使うことが多いのでサブウーハーは必要なく、またセンタスピーカーの左右と同等のものを配置する場合大型すぎてディスプレイの邪魔になる。小型のセンタスピーカーを使うと左右とバランスが取れず音質が悪化する。ダウンミックスを使うことでこのような問題を解決できる。すなわちセンタスピーカーとサブウーハーを使わないで済む)

- FunctionSelect (⑦のボタン) で BalanceX (X は 1~8) を選択している場合、audio-chX (チャンネル X) のレベルコントロールを行います。リアパネルの指示通りに接続すると、audio-ch1 (チャンネル 1) が左、audio-ch2 (チャンネル 2) が右、audio-ch3 (チャンネル 3) がセンター、audio-ch4 (チャンネル 4) がサブウーハー、audio-ch5 (チャンネル 5) がサラウンド左、audio-ch6 (チャンネル 6) がサラウンド右、audio-ch7 (チャンネル 7) がサラウンドバック左、audio-ch8 (チャンネル 8) がサラウンドバック右チャンネルに割り当てられます。+ボタンでレベルを増大、-ボタンでレベルを抑えます。最大±19.7dBまで増減させることができます。
- FunctionSelect (⑦のボタン) で Loudness を選択している場合、ラウドネスコントロールの補正量を可変します。+ボタンで補正量を増大、-ボタンで補正量を抑えます。ディスプレイでは、Loudness[x] の[x]の項が、[7]、[6]、[5]、[4]、[3]、[2]、[1]、[disable]と変化し、[7]が補正量最大、[1]が補正量最小、[disable]でラウドネスオフとなる。

(※ラウドネスコントロール=人間の聴覚は小音量になるほど、低音と高音の感度が鈍る。ラウドネスコントロールは、音量を下げるほど、低音と高音を増強し平坦な聴感を得るように補正を行う回路の事)

## ■リアパネル

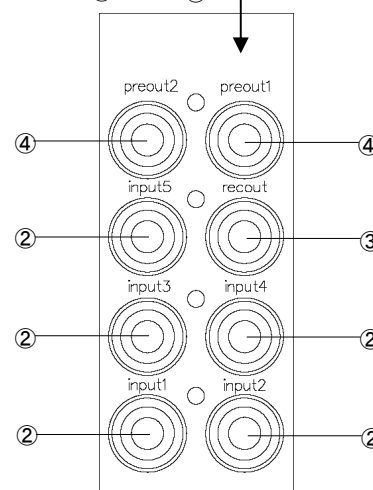


### ① スロットパネル

本機は、モノラル構造のコントロールアンプ基板を、必要チャンネル数、実装しています。従って、同じ『スロットパネル』がリアパネルに並んでいます。『スロットパネル』は、audio-ch1 (チャンネル 1) が左、audio-ch2 (チャンネル 2) が右、audio-ch3 (チャンネル 3) がセンター、audio-ch4 (チャンネル 4) がサブウーハー、audio-ch5 (チャンネル 5) がサラウンド左、audio-ch6 (チャンネル 6) がサラウンド右、audio-ch7 (チャンネル 7) がサラウンドバック左、audio-ch8 (チャンネル 8) がサラウンドバック右になります。全てのスロットパネルは同一構成となっています。

### ② 音声入力端子 (input1~input5)

各スロットパネル毎に、5 系統の入力があります。CD プレーヤー、DVD プレーヤー/レコーダー、Bluray プレーヤー/レコーダー、チューナー、オーディオ D/A コンバーターなどのライン入力レベルの機器の音声出力と接続してください。



③録音出力端子 (recout)

各スロットパネル毎に、録音出力が装備されています。録音機器の入力端子と接続します。

④プリアウト端子 (preout1～preout2)

各スロットパネル毎に、プリアウト端子が装備されています。パワーアンプの入力端子に接続します。2 系統ありますが、内部で並列接続してあるだけです。2 系統を接続する場合には、必ず 2 系統のパワーアンプの電源を全てオンにして使用してください。もし片方のパワーアンプの電源をオフにしていると、レベルが下がったり、歪や S/N が悪化する場合があります。(ビギナーは①系統でご使用ください)

⑤映像入力端子 (video input1～video input5)

D1～D5の映像入力端子です。入力切り替え、録音出力切り替えは、②音声入力 (input1～input5)と連動します。DVD プレーヤー/レコーダー、Blu-ray プレーヤー/レコーダー、テレビチューナーなどの D1～D5 映像出力と接続してください。

⑥ビデオ録画出力端子 (video recout)

ビデオデッキなどの録音入力端子と接続します。③の録音出力端子 (recout)と連動します。

⑦ビデオ再生出力端子 (video preout)

ビデオの再生出力端子です。テレビ、モニター、プロジェクターの入力端子と接続します。④のプリアウト端子 (preout1～preout2)と連動します。

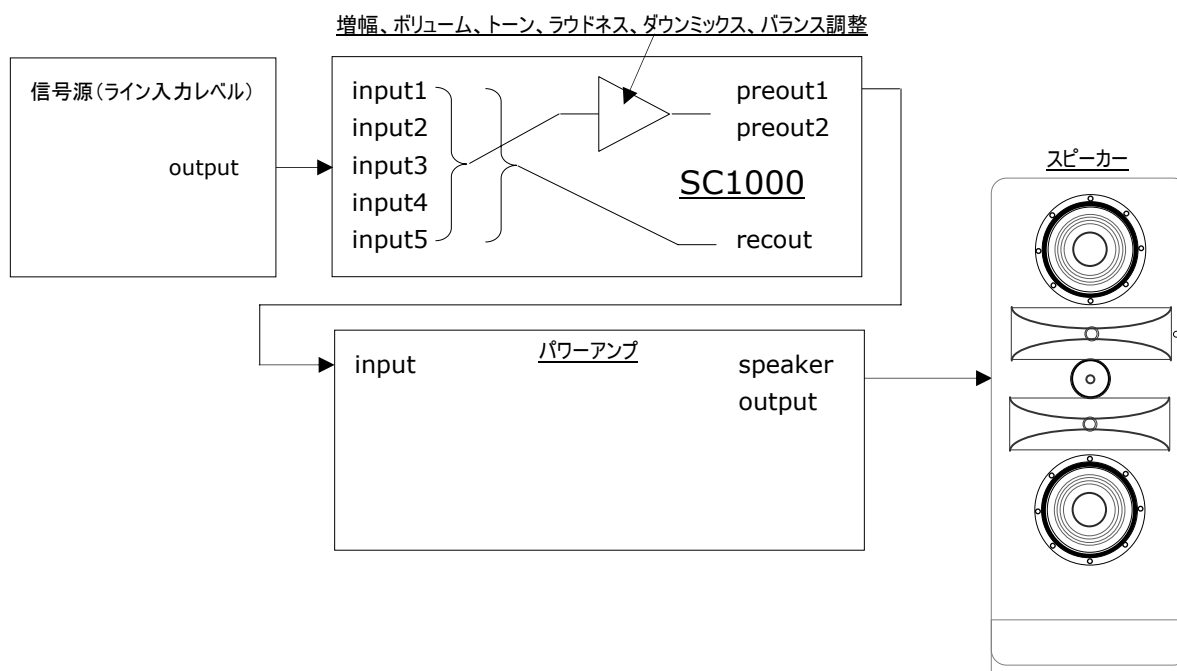
⑧電源入力コネクタ (AC IN)

付属の電源コードを接続します。付属の電源コード以外は使用しないでください。100V で 50/60Hz 用へ接続してください。

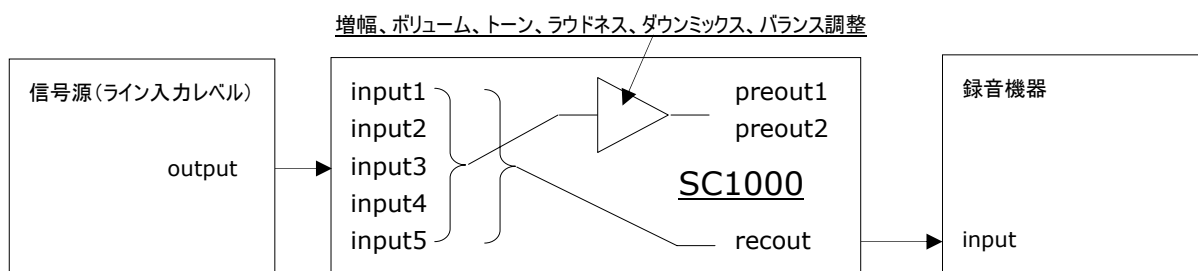
## 5. 接続

### ■概要

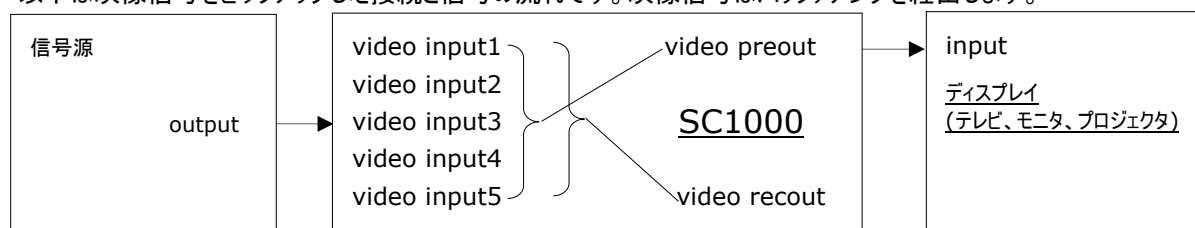
本機はコントロールアンプです。入力 (input1～5) にライン入力レベル機器 (CD プレーヤー、DVD プレーヤー/レコーダー、Blu-ray プレーヤー/レコーダー、チューナー、オーディオ D/A コンバーター) の出力信号を接続し、これを本機の入力切り替えスイッチ (Input Select) で (input1～5) のいずれかを選択し、増幅、音量調節 (ボリューム)、音質調整 (トーン)、ラウドネスコントロール、ダウンミックスなどの処理を行い、プリアウト (preout1 と preout2) から出力します。本機にスピーカーを駆動する能力はないので、プリアウトからパワーアンプの入力に接続し、パワーアンプのスピーカー出力端子にスピーカーを接続してください。以下は音声信号 1 チャンネルのみをピックアップした接続と信号の流れです。実際にはこれと同じものが、最大 8 チャンネル分あります。



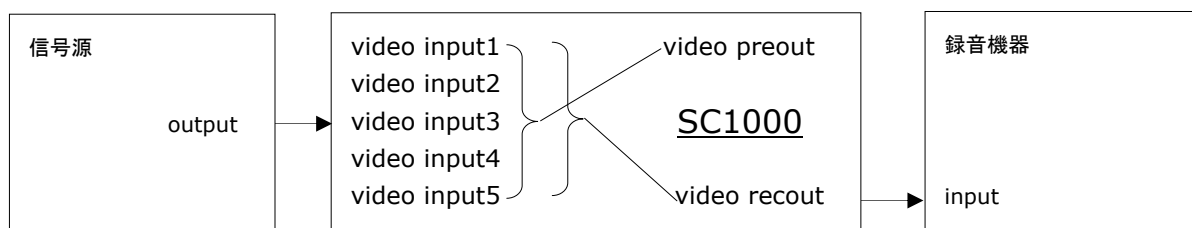
以下は音声信号 1 チャンネルの録音出力のみをピックアップした接続と信号の流れです。実際にはこれと同じものが、最大 8 チャンネル分あります。recout はバッファアンプなどを経由していない(入力をそのまま切り替え回路のみを経由して出力している)ので、長距離の引き回しはしないでください。



以下は映像信号をピックアップした接続と信号の流れです。映像信号はバッファアンプを経由します。



以下は映像信号の録音出力のみをピックアップした接続と信号の流れです。映像信号はバッファアンプを経由します。



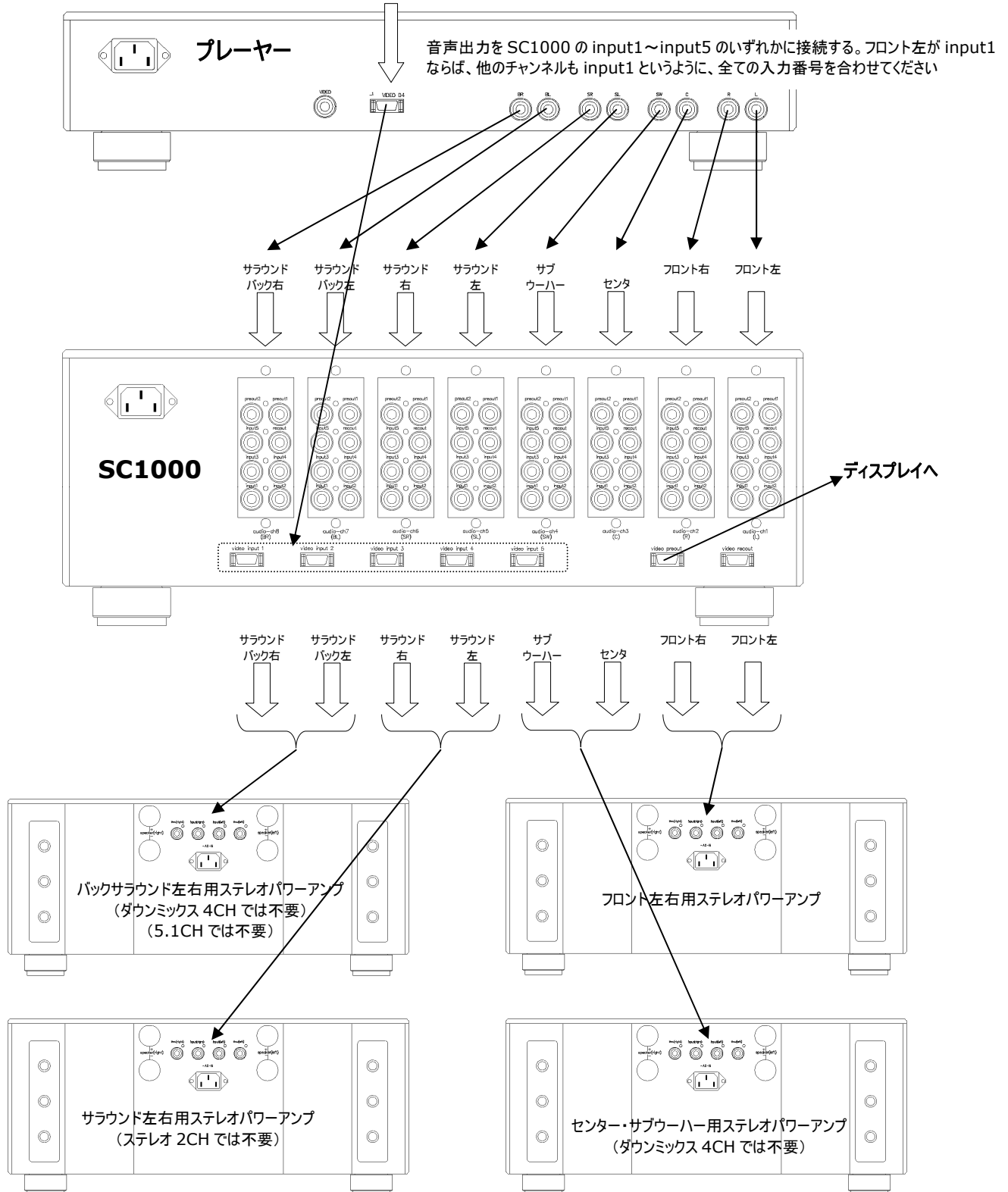
### ■接続における注意事項

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- プラグは確実に差し込んでください。
- 入出力端子の不完全な接続は、雑音発生の原因になります。
- 電源プラグの不完全な接続は、火災・感電の原因になります。
- 接続コード(ピンコード)と電源コードを一緒に束ねたり、雑音の多い電子機器の近くに接続コード(ピンコード)を設置しますと、ハムや雑音の原因になることがあります。
- 接続コードの一方を開放状態にしないでください。雑音を拾ったり、最悪は、サージ(静電気)を拾って機器を故障させる危険があります。

## ■接続例 1

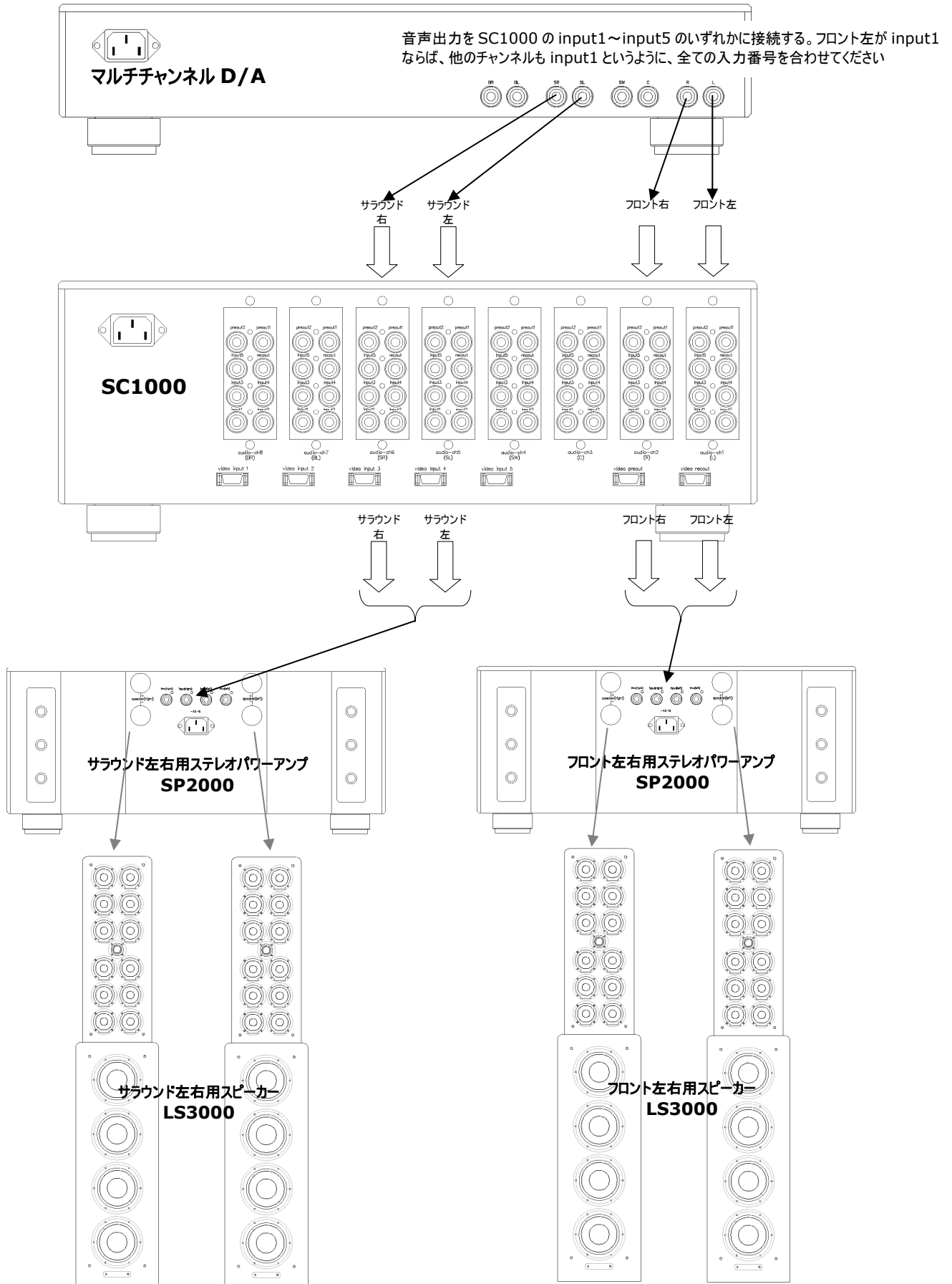
実際の接続例を以下に示します。以下にはスピーカーの接続までは記載しておりません。

映像出力を音声入力と同じ番号の video input X に接続してください。  
 (X は音声と同じ入力番号の意味)  
 映像出力は直接、テレビ、モニタ、プロジェクタに接続してもかまいません。  
 この場合、本機の切り替え機能は無意味になります。  
 映像出力の無い機器ではこの接続は必要ありません。



## ■接続例 2

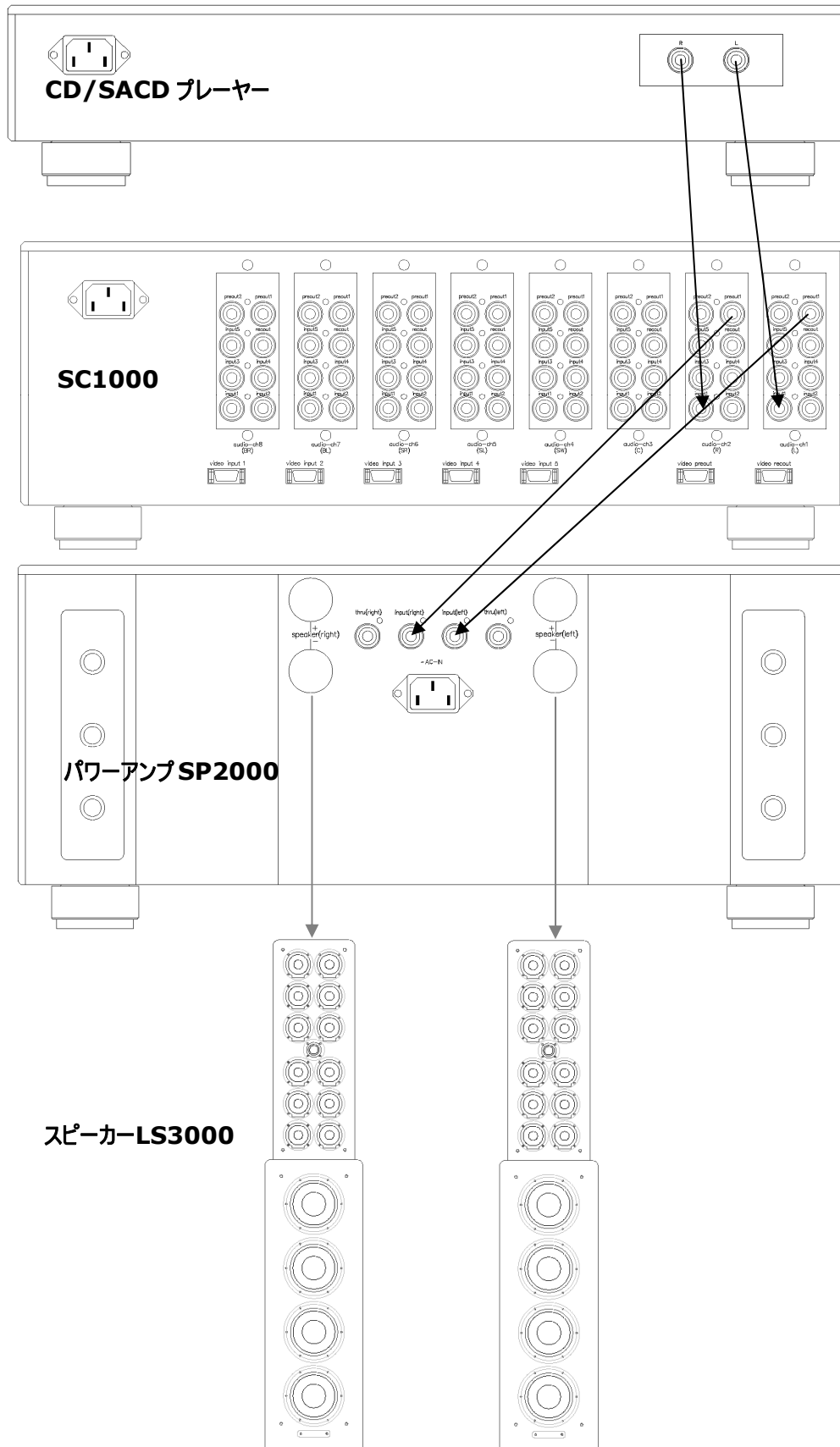
この接続方法はダウンミックス 4CH 接続で、SC1000 のダウンミックス機能を使わず、D/A 以前でダウンミックスを行っています。4CH のスピーカー、4CH のパワーアンプで済むので大型のピュアオーディオシステムに適しています。



### ■接続例 3

この接続方法は一般的なピュアオーディオシステムと同等の 2CH ステレオ接続です。

音声出力を SC1000 の input1～input5 のいずれかに接続する。左が input1 ならば、右も input1 というように入力番号を合わせてください



## 6.操作の流れ

大まかな操作の流れを以下に示します。以下の説明は、主要な操作をリモコンで行う事を前提にしています。

### ■電源投入の手順

信号源(プレーヤ)から、コントロールアンプ、パワーアンプと下流に向かって電源を入れていきます。これによりポップノイズが発生するのを防げます。SC1000 の電源はリモコンでは投入できませんので、本体のパワースイッチ(power)をワンタッチします。

### ■音量

音量が定まっていない場合には、Volume で音量を下げておきます。

### ■入力切替

InputSelect で目的のソースに入力を合わせます。この時、recout に録音機器が接続されていて、電源がオフの場合、RecoutSelect で録音出力を別のソースにするべきです。recoutに録音機器が接続されていない場合、このような配慮は必要ありません。

### ■ダウンミックスの選択

- もしソースが 5.1ch の場合、SC1000 でダウンミックスする場合、FunctionSelect で Down mix を選び、Function+/-で Down mix enable を選択します。
- もしソースが 5.1ch の場合、プレーヤーや D/A 側でダウンミックスする場合、FunctionSelect で Down mix を選び、Function+/-で Down mix disable を選択します。
- もしソースがステレオの場合、FunctionSelect で Down mix を選び、Function+/-で Down mix disable を選択します。

### ■再生

プレーヤー側で再生を行います。

### ■音量調整

Volume で必要な音量に合わせます。

消音したい場合には、Mute をタッチします。

消音を解除する場合、Mute をタッチします。

### ■音質調整

- 低音が過剰な場合、Bass-で低音のレベルを下げます。
- 低音が貧弱な場合、Bass+で低音のレベルを上げます。
- 高音が過剰な場合、Treble-で高音のレベルを下げます。
- 高音が貧弱な場合、Treble+で高音のレベルを上げます。
- Volume で小音量にした時、低音と高音が不足であれば、FunctionSelect で Loudness を選び、Function+/-で数値を上げます。
- Volume で小音量にした時、低音と高音が過剰であれば、FunctionSelect で Loudness を選び、Function+/-で数値を下げます。あるいは Loudness [disable]にします。

### ■電源遮断の手順

パワーアンプから、コントロールアンプ、信号源(プレーヤ)と上流に向かって電源を切っていきます。これによりポップノイズが発生するのを防げます。SC1000 の電源はリモコンでは遮断できませんので、本体のパワースイッチ(power)をワンタッチします。

# 7.性能

周波数特性	5Hz~100KHz(-5.8dB) 20Hz~20 KHz(-0.5dB)
入力インピーダンス	33.3K $\Omega$ $\pm$ 0.5%
出力インピーダンス	250 $\Omega$ $\pm$ 0.1% (ダウンミックス ON 時) 240 $\Omega$ $\pm$ 0.5% (ダウンミックス OFF 時)
最小負荷インピーダンス	2k $\Omega$ (プリアウト)
最大出力	9.3Vrms(ノンクリップ限界)
低歪最大入力範囲	6.4Vrms(THD2-5=4ppm 以下/20Hz-20KHz)
高調波歪率 (2~5 次の合計) (ボリューム位置-34.6dB)	0.5V 0.00005%(1KHz) 0.00005%(20KHz) 0.7V 0.00004%(1KHz) 0.00003%(20KHz) 1.0V 0.00004%(1KHz) 0.00006%(20KHz) 2.0V 0.00004%(1KHz) 0.00012%(20KHz) 3.0V 0.00003%(1KHz) 0.00013%(20KHz) 5.0V 0.00010%(1KHz) 0.00014%(20KHz) 6.4V 0.00037%(1KHz) 0.00038%(20KHz)
S/N 比	124.6dB (入力 6.4Vrms、ボリューム位置-27.31dB、A ウェイト) 116.3dB (入力 2.5Vrms、ボリューム位置-27.31dB、A ウェイト)
残留雑音(A ウェイト)	18.8uV(ボリューム位置 575) 7.8uV(ボリューム位置 500) 5.8uV(ボリューム位置 400) 2.2uV(ボリューム位置 300) 2.0uV(ボリューム位置 200) 1.8uV(ボリューム位置 100 以下)
最大ゲイン	21.1dB(ダウンミックス Off) 15.1dB(ダウンミックス On)
トーンコントロール	バス :11step+6.2dB~-3.8dB(50Hz) トレブル :11step+6.0dB~-3.6dB(10KHz)
ラウドネスコントロール (ボリューム位置 200)	Loudness[7]:100Hz/6.6dB、20KHz/7.6dB Loudness[6]:100Hz/6.4dB、20KHz/7.4dB Loudness[5]:100Hz/6.1dB、20KHz/7.2dB Loudness[4]:100Hz/5.8dB、20KHz/6.9dB Loudness[3]:100Hz/5.1dB、20KHz/6.3dB Loudness[2]:100Hz/4.1dB、20KHz/5.5dB Loudness[1]:100Hz/2.4dB、20KHz/4.0dB Loudness[disable]:100Hz/0dB、20KHz/0dB
電源	AC100V 50/60Hz
消費電力	55W(電気用品安全法)、1.9W(待機電力)
外形寸法(幅×高さ×奥行き)	475.6×414.2×177mm (ボリュームノブ・ジャック突出部分含まず)
重量	19.8Kg

※歪率・雑音・S/N 比はダウンミックスオフ、ラウドネスオフ、トーンフラットで測定